

血液内科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 再発リスク症例における移植片対宿主病(GVHD)発症と移植片対白血病(GVL)効果の相関に関する研究

[研究機関] 北海道大学病院 血液内科

[研究責任者] 田中 淳司 (血液内科・准教授)

[研究の目的] 造血器悪性腫瘍の多発再発症例および非寛解期症例は化学療法単独での治癒は見込まれないため、移植片対白血病(GVL)効果を期待して、同種造血幹細胞移植が一般的に行われています。このような疾患群は一般的に移植後再発高リスク群として認識されています。しかしながら、このような疾患群を対象に移植片対宿主病(GVHD)発症率とGVLとの相関を検討した報告は少なく、効果的なGVL効果を誘導するための標準的なGVHD予防法ならび治療法はまだ確立されていません。

本研究においては、本邦において再発高リスク群への同種造血幹細胞移植症例の詳細な後方視的解析を行い、急性および慢性GVHDの発症率およびその重症度などを把握し、無病生存率（DFS）、全生存率（OS）を検討し同種造血幹細胞移植療法の成績向上に寄与することを目的と致します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

16歳以上で1999年1月から2010年12月までに同種造血幹細胞移植を受けた方。

●利用するカルテ情報

造血細胞移植学会一元化登録事業データを用いて同種移植（血縁、非血縁）を施行された、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、骨髄異形性症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの全血液悪性腫瘍疾患における再発症例、非寛解症例を対象として、急性GVHDおよび慢性GVHDの発症とGVL効果の関連性をDFSおよびOSにて検討しGVHD非発症例と比較します。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目
北海道大学病院 血液内科 担当医師 田中 淳司
電話 011-706-7214 FAX 011-706-7823